

## 夏はプール熱が流行の季節です

健康エクスプレス No. 56

夏に子供がかかりやすい病気にプール熱があります。今回はこれからの季節に患者さんが増加する「プール熱」についてご紹介します。

### プールの水が感染経路に

#### (1) プール熱とは

正式な病名を『咽頭結膜熱』といい、発熱とともにのどや目にも症状が現れます。患者数は6月頃から増加しはじめ、幼稚園や学校でプールに入る機会が多くなる7～8月が最も多くなります。夏かぜの一種ですが、原因はアデノウイルスという微生物(ウイルス)で、主に免疫力の弱い子供の間で伝染します。感染経路の多くが学校などのプールとなることから、「プール熱」と呼ばれています。現在では、温水プールで一年中泳ぐことが可能となったため、夏以外でも感染する方が増えています。共同浴場でも感染することがあります。また、患者さんの咳、くしゃみ等から飛沫感染することもあります。

主に右表のような症状があります。なお、プール熱の潜伏期間は5～7日です。その間に他の人に感染する可能性があります。

#### (2) アデノウイルスとは

「アデノ」とは扁桃腺やリンパ腺(節)の「腺」を意味する言葉です。アデノウイルスは40種類以上発見されていますが、プール熱の原因となるものはその一部です。扁桃腺やリンパ腺(節)の中で増殖します。アデノウイルスは、肺炎などの呼吸器疾患、胃腸炎などの消化器疾患、肝炎、脳炎などを起こすことがあります。



38～40度の高熱が4～7日間続く。
ノドや扁桃腺が赤く腫れ、4～5日間痛む。
目が赤く充血し、痛み、目やにが出る。
頭痛がする。寒気がする。
食欲不振。吐き気がする。下痢になる。
鼻水がでる。

### プール熱の治療と予防は

#### (1) プール熱かな?と思ったら

上表のような症状がある場合には、プール熱の可能性があります。すみやかに医師の診察をうけましょう。鼻水やのどの粘膜、便を調べることでアデノウイルスの感染は比較的簡単に診断できます。また、他の人への伝染を防ぐために、プール熱とみられる症状がある場合には、プールや共同浴場などへ行かないようにしましょう。

なお、プール熱は学校保健法で第二種伝染病に指定されています。はしかやインフルエンザ、おたふく風邪などと同じ伝染病に該当し、主要な症状がなくなってから2日を経過するまで登校が禁じられています。回復後、登校する時は医師と相談しましょう。

#### (2) プール熱の治療

アデノウイルスは感染症を治療する抗生剤が効かないため、プール熱の特効薬はありません。そのため、高熱、のどや眼の症状を改善するために、それぞれ個別の治療を行うこととなります。熱を下げるために解熱剤が投与されることがあります。安静にしていれば、4～5日で症状は治まる場合がほとんどです。

#### (3) プール熱の予防と注意

プール熱の予防として、うがいや手洗いを良く行うことが大切です。プール利用後には、シャワー、洗眼をきちんと行いましょう。タオルを介して感染する場合もあるので、タオルは共用しないようにしましょう。

プール熱は大流行となる年があります。国内でのプール熱の発生状況は、全国約3,000カ所の小児科医療機関から国立感染症研究所感染症情報センターへ毎週報告されています。下記のホームページで報告の集計表を随時、見ることができます。(各図表の咽頭結膜熱データを参照)

<http://idsc.nih.gov.jp/idwr/sokuho/index.html>

※「定点把握疾病(週報告)、報告数・定点当たり報告数、疾病・都道府県別」

※「疾病毎定点当たり報告数・グラフ-過去10年間との比較」



皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当: 八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL: 03-3582-4511